

# IV 普及啓発・情報提供





# 1 「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」(九州・沖縄ブロック)

(1) 共生社会コンファレンスの趣旨

## 共に学び、生きる共生社会コンファレンス

### 趣旨

平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえ、学校卒業後の障害者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び生きる共生社会の実現に向けて、**障害者の生涯学習の機会を全国的に整備・充実**することが急務である。

そこで、令和元年度より**障害者の生涯学習活動の関係者が集う「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」を全国ブロック別に開催**し、障害者本人による学びの成果発表等や、学びの場づくりに関する好事例の共有、障害者の生涯学習活動に関する研究協議等を行う。障害の社会モデルに基づく**障害理解の促進**や、支援者同士の学び合いによる**学びの場の担い手の育成**、**障害者の学びの場の充実**を目指す。

### 参加者

○150~300名程度を想定 ○障害者本人、学びの支援者・関係者、障害者の学びに関心のある人など

⇒都道府県・市町村職員（障害者学習支援担当、生涯学習、教育、スポーツ、文化・芸術、福祉、労働等）、社会教育主事、公民館・図書館・博物館職員、特別支援学校等教職員、教職員経験者、障害者の学習支援実践者（NPO等）、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員等。

### コンファレンス実施内容

**例1** 障害者の学びのニーズや学びの成果としての社会参加機会の創出に向けて、障害者本人による学びの成果発表や思いの表現等の機会を設定

**例2** 障害者の学びの場の担い手を育成するための優れた実践事例の発表や、ワークショップ等の実施

**例3** 各テーマ（学びの場の類型、障害種、実施主体等）ごとの分科会の開催、関係者のネットワーク構築に資する交流機会を設定

誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会の実現



コンファレンス  
(Conference)

会費、協賛金  
関係者間で共有する問題  
について協議すること

【概要映像】令和元年度  
関東甲信越ブロックの様子



【記録映像】令和2年度  
中国・四国ブロックの様子



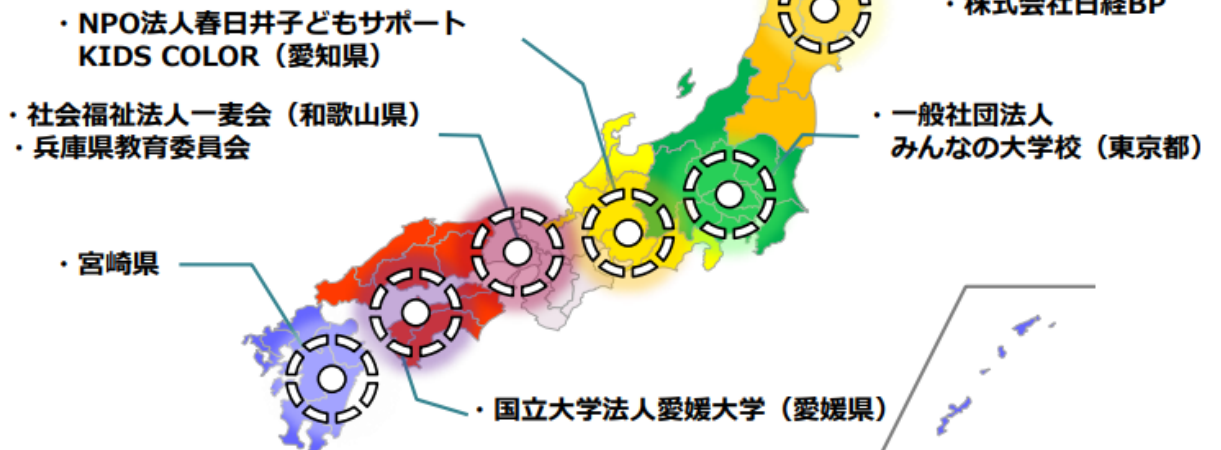
(2) 令和3年度コンファレンス実施団体

## 令和3年度「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」 ブロック別実施団体地域分布

★全国を7ブロックに分け、複数の都道府県の域内関係者を対象として実施

<共生社会コンファレンス 実施予定団体 (全8箇所)>

北海道ブロック (北海道教育委員会)  
東北ブロック (岩手県教育委員会・株式会社日経BP)  
関東甲信越ブロック (一般社団法人みんなの大学校)  
東海・北陸ブロック (NPO法人春日井子どもサポートKIDS COLOR)  
近畿ブロックA (社会福祉法人一妻会)  
近畿ブロックB (兵庫県教育委員会)  
中国・四国ブロック (国立大学法人愛媛大学)  
九州・沖縄ブロック (宮崎県)



## (3) 開催報告

## 「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」(九州・沖縄ブロック)

## 開催報告

## I 概要

## 1 主催

宮崎県、文部科学省

## 2 テーマ

宮崎発! 「いつでも、どこでも、誰でも学べる」持続可能な共生社会を実現するために

## 3 日時

令和4年1月22日(土) 午前10時から午後3時まで

## 4 配信会場

宮崎県教育研修センター

## ① 配信方法

Zoom ミーティング

## ② 情報保障

手話通訳の画面表示、Zoom アプリを用いた字幕表示

## ③ 他の接続拠点

文部科学省(施策説明時)

## ④ プログラム

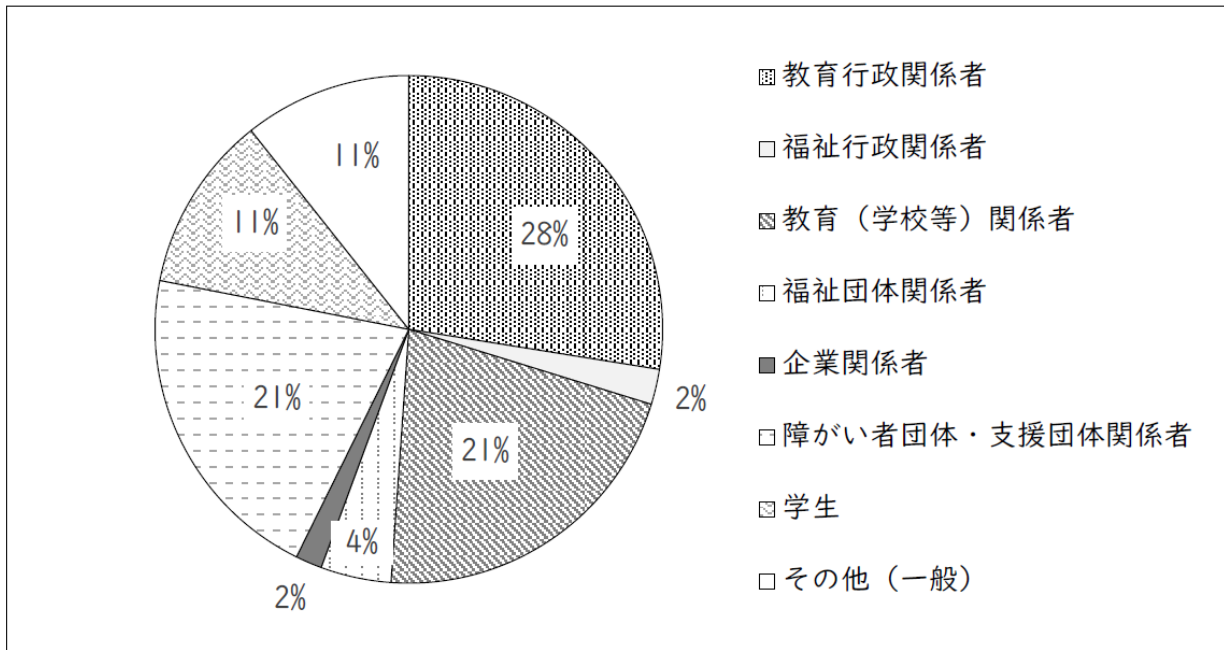
10:00-10:10	オープニング	開会のことば(県教育庁生涯学習課) スペシャルビデオメッセージ(有森 裕子氏)
10:10-10:30	施策説明	文部科学省の取組(障害者学習支援推進室) 宮崎県の取組(教育庁生涯学習課)
10:35-10:55	経過報告Ⅰ	障害者自立応援センターYAH!DOみやざき(宮崎市)
10:55-11:15	経過報告Ⅱ	霧島おむすび自然学校・小林市社会教育課(小林市)
11:15-11:35	経過報告Ⅲ	日向市地域福祉コーディネーター連絡会(日向市)
11:35-11:50	県内団体活動紹介	ライフカンパニー新富～南九州大学野村研究室～ 延岡市地域活動支援センターみなと～株式会社グローバル・クリーン ～宮崎わたぼうし会～スペシャルオリンピックス日本・宮崎～ NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク
13:00-13:40	取組推進校発表Ⅰ	日南くろしお支援学校(谷川 佳雅 教諭)
	取組推進校発表Ⅱ	都城きりしま支援学校(那須 直実 教諭)
13:50-14:50	トークセッション	「障がいの有無に関わらず誰もが学び、生きやすい社会を目指して」
14:55-15:00	クロージング	総括・あいさつ(清武せいりゅう支援学校 校長 横山 貢一)

## 5 事後

- ① 参加者アンケートの実施・回収
- ② 県生涯学習課 HP「みやざき学び応援ネット」更新
- ③ 宮崎県教育情報テレビ「みらい・みやざき まなび隊」放送

## II コンファレンスの実際

### I 事前参加申込数



- \* 事前申込者数は178名、うち50%が教育行政関係者、教育（学校等）関係者
- \* 申込時に確認できた県外からの申込者数は16名（約9%）  
うち6名が九州、10名が九州外から

### 2 当日の参加者数

【Zoom ミーティング上でのプログラムごとの参加者数（いずれもピーク時の数）】

午前		午後	
オープニング	105	取組推進校発表	102
施策説明	107	トークセッション	105
経過報告	120	クロージング	100
県内団体活動紹介	117		

- \* Zoom ミーティング上での参加者数のピークは、午前120、午後105
- \* 九州保健福祉大学に17名、延岡市地域活動支援センターみなどに12名、南部教育事務所に1名それぞれの会場に集まって視聴
- \* 宮崎の配信会場での参加者数は、19人（委員2・登壇者1・事務局16）

## 3 経過報告の概要

## (1) 経過報告 I

団体名	NPO 法人障害者自立応援センターYAH!DO みやぎ
報告題	共生社会の実現に向けた生涯学習支援 ～障害のある人の学びと交流の場所を作る～
報告者	副理事長 山之内 俊夫 氏
概要	障がい者本人の「やりたいことリスト」を専門学校生とともに実践する為に、まずは知り合うための交流会を実施した。障がいの有無にかかわらず、皆が楽しみながら主体的に関わることで、持続的な学びと交流の場が広がり、「共生」の実現につながるということが報告された。



## 【参加者から】

- \* 障がいのある方の「やりたいことリスト」を実現するために企画・行動されていることが素晴らしい。
- \* 「人間関係の豊かさが人生の豊かさ」とあったように、障がいのある、なしに関わらず、人とのつながりが大切であると改めて感じた。
- \* 学生とYAH!DOみやぎの方が出会って、どう関わっていいか戸惑い、目標設定を考え直したこと、まずは互いを知るための交流会と食事会。結果より話し合う過程を大事にしたことに意味があり、互いの学びになったのではない。
- \* 「自分がやりたいことを実現する場所」を目指す、「リーダーシップを取り戻したい」、魂の叫びのような力強いメッセージ、「障がい者のことは障がい者が一番知っている」共感性の高い皆様の言葉には説得力があった。

## (2) 経過報告Ⅱ

団体名	霧島おむすび自然学校・小林市社会教育課
報告題	障がいのある人とその家族と共にある体験活動 ～協働による生涯学習の在り方を考える～
報告者	代表 壹岐 博彦 氏・主幹 戸高 明廣 氏
概要	ポン太クラブとの「民間団体同士」の協働活動として「防災プチキャンプ」を、小林市社会教育課との「民間団体と行政」の協働活動として、「フットパス」を実施した。今後、持続的に実施していく上での成果や課題について報告された。

霧島おむすび自然学校 壹岐 博彦  
(宮崎県小林市)

1日目

調理活動

テント立て

須木を歩こう！“フットパス”を楽しもう！

◆期日 令和3年12月21日(火)  
◆時間 12:50～15:00  
◆場所 須木下田・中原区内(須木庁舎 発着)  
◆内容 須木下田・中原区(3.6km)内ウォーキング  
※自然や風景をあじわいながら、町並みや風景、住民の方々とのふれあいを楽しむ

参加者:16名(当事者5、職員2) ボランティア4、他5

## 【参加者から】

- \* 他の機関と協働で学びの機会を広げていく取組が、とてもいいと思う。計画段階で、蜜に連絡を取り合ったりさまざまな想定が必要になったりして、団体単独で行う活動よりも時間がかかるが、こういう一つ一つが大事だと思った。
- \* 市民向けの生涯学習講座が、障がいのある方々のニーズや要望に答えられていない点に着目し、講座の一つとして実施したことが非常に参考になった。これは、他の自治体でも同様な取組が実現可能であると思う。
- \* 行政や様々な団体との良好な関係があってこそその充実した活動だと感心した。同じような活動をするところが県内に増えていくことを期待したい。
- \* 発表で、実施主体が不明確の為に進まなかった様子が伝わってきた。そこがリアルな課題。今回の取組を通して、そこがひとつ進むと、社会教育という生涯学習活動の宝庫に障がいのある人が入れるきっかけとなることを期待したい。

## (3) 経過報告Ⅲ

団体名	宮崎県コンソーシアム連携協議会 北部地区委員
報告題	「実践 × 想い」 ～県北地区の Challenge! ～
報告者	地域福祉コーディネーター 成合 進也 氏
概要	県北地区の具体的実践プランを作成するために、県北地区のメンバーで「障がい児・者の学びの機会を阻害するもの(地域社会の課題)は何か」と想いを出し合うミーティングを実施した。さらに委員一人一人の Action plan から生まれた実践が報告された。



令和3年度県北地区実践

実践2 県北メンバーによるZOOMミーティング開催!

ロ3つの「問い」で、意見を事前整理  
問1「やっていること」、「やりたいこと」、「できること」、「やるべきこと」※委員一人ひとりの実践に対する考え(意見・想い)  
問2 障がい児者の学びの機会を阻害するもの(社会の課題)何? ※問1を振り返り、考える 原因・要因・社会的背景は?  
問3「だったらどうする?」 ※問2を基盤するために、何が? (仮定は? 実行方法は?) 具体的に何を?

県北ブロックMeeting  
令和3年11月4日 14:00～15:30  
委員、事務局関係者 10名参加

ゴール設定  
県北地域における具体的実践プランの作成に必要な材料(素材)を煮める!

メンバー間の本音トーク!  
想い合わせ、実践課題の把握(共有)  
実践プランニングの素材集め!

令和3年度県北地区実践

実践4 Actionplanの実践!

地域福祉meeting 企画・開催!

【参加者】25名  
□ 福祉関係者  
□ 消防団  
□ 障がい児者や家族  
□ teとteままの会

令和3年11月30日(火)19:30～21:00 亀崎中区公民館

目的(何のために...)  
▷ 地域に暮らす障がいのある人や家族の思いや日常生活の状況を知る  
▷ 災害も含めた日常からの地域の実践について考える  
▷ 地域関係者の想いを合わせ、相互の関係づくり



## 【参加者から】

- \* 障がいのある人が集って食事を作り食べる。いい企画だと感じた。
- \* 子どもの時期から障がいのある人にかかわる、共生社会の担い手を育てる、という視点は重要だと感じた。
- \* 地域福祉 meeting が印象に残った。その場に参加された方々の熱意にも心を打たれた。消防団等地域の方々を巻き込んで防災に関する計画を立案することは非常に大事で、モデルケースとして全国に発信する意義の大きさを感じた。
- \* “住民としてできること”という言葉がとても印象に残った。普段は公的に満足なサービスを受けられていても、緊急時など、地域の人々との関わりは必要となる。地域住民や行政を巻き込んだ連携づくりなどは、モデルになる素晴らしい取組だと思った。地域での関わりが増えれば、障がいのある人もない人も出会う機会が増えて豊かな人生の構築につながっていくと感じた。



## 4 県内団体活動紹介の概要

紹介団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ライフカンパニー新富</li> <li>○ 延岡市地域活動支援センターみなと</li> <li>○ 宮崎わたぼうし会</li> <li>○ NPO法人五ヶ瀬川流域ネットワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 南九州大学野村研究室</li> <li>○ 株式会社グローバル・クリーン</li> <li>○ スペシャルオリンピックス日本・宮崎</li> </ul>
------	---	---



## 【参加者から】

- \* 自分たちの取組を積極的に広報することで、他の団体の刺激や参考になる。
- \* 様々なツールや場を使って広報していくことが効果的である。
- \* さまざまな団体の活動を見て胸が熱くなった。
- \* 県内には素晴らしい団体がたくさんあると改めて感じた。取組がもっとPRされ、多くの人の目に留まれば、障がい当事者も参加しやすくなり、ボランティアで参加したいという人たちも増えると思う。
- \* このような団体の情報がより広く周知される仕組みがあるとよい。もったいない。

## 5 県内特別支援学校実践発表の概要

## (1) 取組推進校発表 I

学校名	宮崎県立日南くろしお支援学校
発表題	「地域活動につなげる取組」
発表者	教諭 谷川 佳雅 氏
概要	日南くろしお支援学校の卒業生が中心となって地域で活動している「かがやきエイサー」との学習を通して、学校卒業後の生涯学習へのイメージをつくり、卒業後の余暇活動や社会参加について生徒の生涯学習の意欲向上を図る取組が発表された。



## 【参加者から】

- \* 学校が地域とつながって取り組む大変素晴らしい内容。他の支援学校のモデルとなる。
- \* 従来の「地域活動につなげる」取組を発展させ、「卒業後の地域活動」に向けた取組（「知る」「体験する」）のプロセスを具体的に知ることができた。
- \* 地域の素晴らしい資源を活かした体験活動。卒業生の生き生きした姿を見て、卒業後への希望や、夢を見出した子もいたと思う。
- \* 生徒への調査と生徒がイメージしやすい取組をされていて、素晴らしい。生徒が先輩の活動を知って、「自分もやってみたい」と感じるということが素敵だ。
- \* 障がいの有無に関わらず、地域の中で自分らしく人生を謳歌できる社会になればいいと感じた。

## (2) 取組推進校発表Ⅱ

学校名	宮崎県立都城きりしま支援学校
発表題	「食育に関する取組」
発表者	教諭 那須 直実 氏
概要	大学教授を招き、「食品を通して人々の健康を考える」講義を受けた後、管理栄養士の先生から実際に味噌づくりを学ぶという体験を通して、学校卒業後の生涯学習への意欲向上を図るだけでなく、地域の活動への参加についても広がりが見える取組が発表された。



## 【参加者から】

- \* 児童生徒の関心が高い「食」に着目して取り組んだ素晴らしい内容。地域の団体や活動を調査し、それを学校の教育活動に上手く融合されていた。他の支援学校のモデルになると思う。
- \* 地域の外部講師の方を呼んで授業を行うことの意義は、その場だけで終わらずに、今後のさらなる学びへの広がりができることだと感じた。
- \* 食育をすることで、「大学へ行く」「大学という学びがある」「大学に市民講座がある」などを知ったことが感動的。次へつながる、可能性が広がる感じがした。
- \* 卒業後を見据えた授業の一環として、具体的に食育に的を絞った授業を取り入れることは参考になる良い取組だと感じた。

## 6 トークセッションの概要

テーマ	「障がいの有無に関わらず誰もが学び、生きやすい社会を目指して」
コーディネーター	柳田 哲志 氏 (UMKテレビ宮崎)
登壇者	森 愛実 氏 (NPO 法人障害者自立応援センターYAH!DO みやざき) 後藤 海翔 氏 (専門学校) 川越 浩司 氏 (宮崎県立都城きりしま支援学校) 井上 あけみ 氏 (NPO 法人ライフカンパニー新富)

**共生社会の実現に係る  
共に学び、生きる共生社会コンファレンス(九州・沖縄ブロック)**

**トークセッション**  
13:50~14:50  
コーディネーター  
テレビ宮崎アナウンサー 柳田 哲志 氏  
登壇者  
YAH!DOみやざき 森 愛実 氏  
専門学校 後藤 海翔 氏  
都城きりしま支援学校 川越 浩司 氏  
ライフカンパニー新富 井上 あけみ 氏

これからやりたいこと☆

- 地域の学校で講演・交流授業
- インクルーシブ運動会
- 赤ん坊からお年寄り、障害のある人ない人、外国人 いろんな人を巻き込んでイベントや祭りなど...

障がい者の生涯学習支援のための方策

- 障がい児(者)の支援に関わる関係機関等の連携・協力を進めるためのシステムを構築すべき
- 障がい者向けの生涯学習の機会を具現化するための生涯学習プログラムの策定が望まれる。(市町村の関係部局を中心に)
- そのためにはまず、いわゆる「行政の壁」を超えた、具体的な連携が望まれる。※「本気度」が何より必要

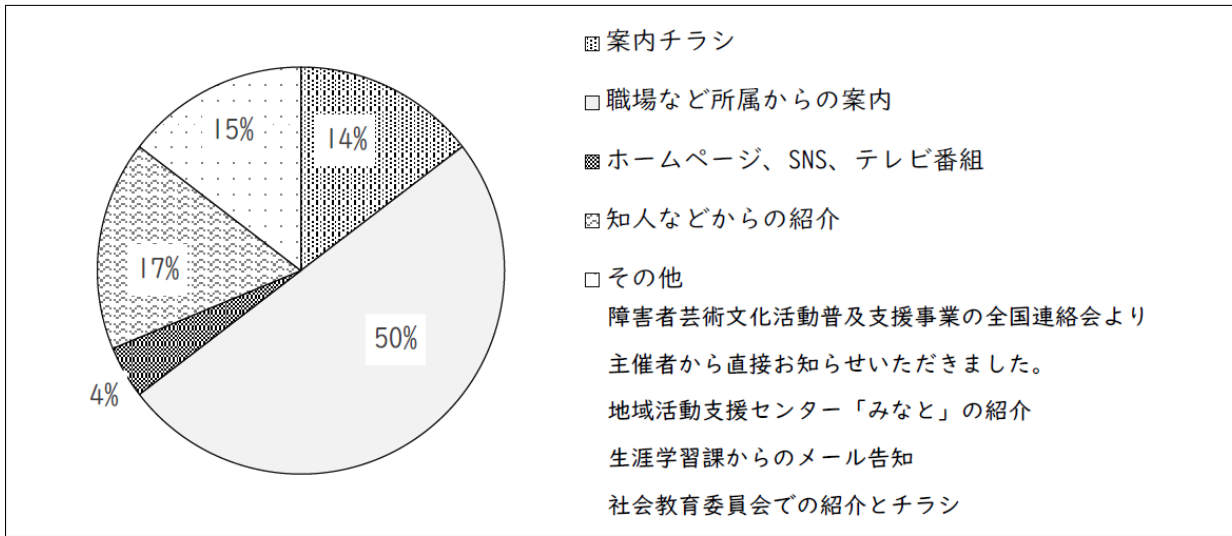
## 【参加者から】

- \* 森さんがにこにこして、発表をされているところが素晴らしい。毎日、前向きに過ごされているのを感じた。話を聞いていてこちらも前向きな気持ちになった。
- \* 後藤さんの「今まで周りの人から支えられたので、これからは支える人になりたい」という言葉に将来の宮崎県を支えていく素晴らしい人物だと感じた。
- \* 社会は、行政は、何をしたいけるのかを熟議する必要があると思う。そのためには、教育行政だけではなく、福祉部局等の実情も踏まえたセッションもあると話が立体的、現実的になると思った。
- \* 学校現場を含め、障がいのある方への支援体制は充実しつつあるが、それにより差別化が助長され分離教育となっているとのことであった。これについては、共生社会の実現に向けて、大きな課題となると感じた。

## 7 参加者アンケート

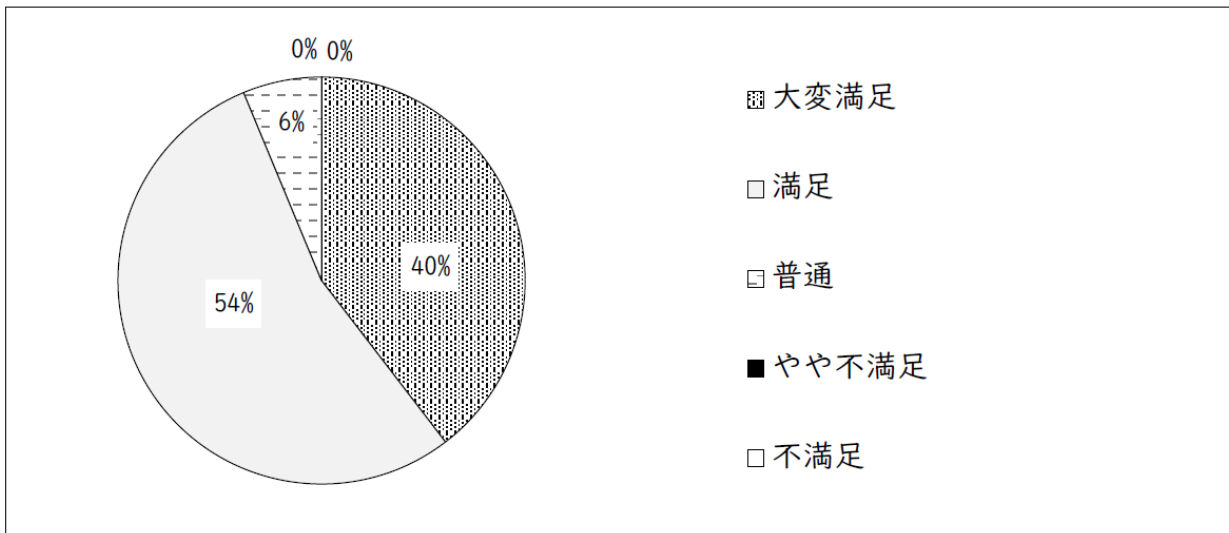
(1) 回答数 48 (入力フォームによる回答)

(2) コンファレンスをどのように知ったか



- \* 半分以上が「所属からの案内」でこれまでの案内方法で一定の効果がある。
- \* 参加者の属性から見ても教育関係者が多い(約5割)。福祉関係者等への広報が課題である。
- \* 昨年(0%)に比べHP、SNS、テレビ番組が4%と微増した。YouTube、ラジオなどの効果か。
- \* 次年度は、「共生社会」から距離のある人への広報の在り方を検討したい。

(3) コンファレンスの満足度



- \* 回答者の90%以上が「大変満足」「満足」と回答している。

## (4) 本コンファレンス全体を通して

- \* 初めて参加したが、得るものがとても多かった。多くの方に、後からでも視聴していただきたい。
- \* 非常に充実した、中身の濃いコンファレンスだったと思った。正直なところ、圧倒された。
- \* 共生社会を詳しく知らない人でもわかりやすく楽しい会だったと思う。
- \* 今回は知人から教えてもらったが、テレビのCMなどで発信するなど身近な媒体で知る機会が必要だと思った。みんなが共生社会を作り出すために、行政と民間が本気の行動をとることが必要だと感じた。
- \* 改めて、障がいのある方々のことをどれだけ考えた取組をしてきたかと反省することが多かった。意識しなくても、自然に障がいのある方々のことを考慮した行動や取組ができること、それが当たり前の社会にしていくことが大切だと実感したコンファレンスであった。

## 8 成果と課題

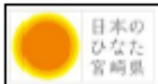
## (1) 成果

- 今年は、県内の取組にスポットを当てた内容であったが、県内団体活動紹介でスライドショーを流すなど、多くの団体を紹介することができ、県民への発信という目的に迫ることができた。
- 今回コンソーシアム協議会の3地区からの経過報告があり、「当事者×学生」「民間団体同士、民間団体と行政」「実践 × 想い」とそれぞれの視点に当てた取組を報告することができた。
- 計画段階でオンライン開催を想定していたため、急な感染拡大にも対応することができ、また、遠方からの参加や、普段このテーマに関わりの少ない方も参加者していただけた。

## (2) 課題

- 昨年度の反省を踏まえ1時間短くしたが、トークセッションなど内容を深めたいものもあり、開催方法も含め検討が必要である。
- より多くの方へ「共生社会」のテーマを周知する方法について、さまざまなメディアを活用するなど、情報発信の在り方を検討する必要がある。





主催 宮崎県教育委員会 文部科学省

令和3年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンス (九州・沖縄ブロック)

## 宮崎発！「いつでも、どこでも、誰でも学べる」持続可能な共生社会を実現するために

誰もが共に学び、共に生きる社会を宮崎県は目指します。  
そのために、私たちは、何を考え、何を実行すべきか。  
障がい者の生涯学習について、みんなで考える1日にしましょう。

当日は有森裕子氏(文部科学省スペシャルサポート大使、公益財団法人スペシャルオリンピックス日本理事長)より、スペシャルビデオメッセージをお届けします！



スペシャルビデオメッセージ  
有森 裕子 氏  
(文部科学省 スペシャルサポート大使)

※文部科学省では、障害の有無にかかわらず、共に学び、生きる「共生社会」の実現に向けた普及・啓発を図る「スペシャルサポート大使」を著名人8名に任命しています。

日程

令和4年 **1月22日**(土)

時間

10:00～15:00 **オンライン開催**

申込み

**参加費無料** 詳細は裏面へ

### 1. 「Let's try it II」 ～ 経過報告～

10:35～

今年度、さまざまな共生社会の実現に向けた生涯学習実践を、宮崎県の各地で行いました。それぞれの地区の協働した取組について発表します。



#### 当事者×学生

当事者団体のYah!Doみやざきと専門学校の学生が一緒になって、やりたいことの実現に向けて取り組みました。

#### 民間団体同士 及び 民間団体×行政

民間団体同士、民間団体と行政との協働事業を通して、障がいのある方の生涯学習の場づくりの在り方について考え、取り組みました。



#### 実践×想い

協働実践に向けて、県北メンバーで想いを一つにしたaction planを作成し、新たな地域(県北)実践にChallengeしました。

### 2. 「Get together II」 ～ 県内団体活動紹介 ～

11:35～

アウトドア・アート・スポーツ・仕事…。障がいのある方の学びや余暇活動はもちろん、まわりからサポートする人材を育てる活動など。県内で活動している、さまざまな団体を紹介します。

ライフカンパニー新富



南九州大学野村研究室



延岡市地域活動支援センターみなと



株式会社  
グローバル・グリーン



宮崎わたぼうし会



スペシャルオリンピックス  
日本・宮崎



NPO法人五ヶ瀬川  
流域ネットワーク





### 3. 「Learn for Future II」～取組推進校の紹介～ 13:00～

特別支援学校卒業後の生涯学習につながる実践を、県内の2つの特別支援学校が発表します。



**日南くろしお支援学校**  
地域活動につなげる取組

**都城きりしま支援学校**  
食育に関する取組



### 4. 「Think about “KYOUSEI”」～トークセッション～ 13:50～



コーディネーター  
**柳田 哲志 氏**  
テレビ宮崎アナウンサー  
2008年頸髄損傷、四肢麻痺  
復職後、番組MC、ナレーション、  
県内の講演などで活躍中  
宮崎県ポッチャ協会副会長



**森 愛実 氏**  
YAHIDOみやざき



**後藤 海翔 氏**  
専門学校 学生



**川越 浩司 氏**  
都城きりしま支援学校 教諭



**井上 あけみ 氏**  
ライフカンパニー新富 代表



#### 参加申込み方法

## オンライン 開催

申込み方法 申込み期限 令和4年1月14日

右のQRコードまたはURLから申込フォームにアクセスし、必要事項を入力の上、送信してください。

URL:  
<https://shinsei.pref.miyazaki.lg.jp/GmMKxMwB>



QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

- \* 参加申込時にメールアドレスを登録してください。開催日までに当日に向けた連絡事項(ID、パスワード、接続方法等)をメールによりお知らせします。
- ・ 参加にあたっては、インターネットに接続できる環境が必要です。
- ・ 通信環境によって配信の状況が異なることがあります。また、利用する回線の契約プランに通信容量制限や速度制限がある場合は、通信の遅延や通信料の追加等が発生する場合がありますので、御注意ください。
- ・ 参加申込時にいただいた個人情報は、本コンファレンス以外の目的には使用いたしません。

お問合せ

宮崎県教育庁生涯学習課  
生涯学習推進担当  
(TEL)0985-26-7245  
(FAX)0985-26-7342

こちらにも情報を  
掲載しています

**みやざき学び応援ネット** (宮崎県生涯学習課  
新生涯学習総合情報提供システム ウェブサイト)

<https://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp>

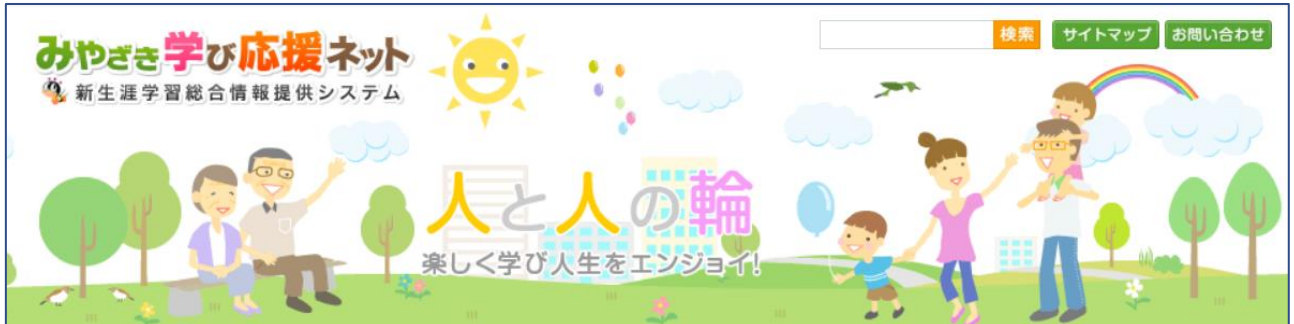


## 2 ホームページへの情報掲載

県生涯学習課ホームページ「みやざき学び応援ネット」に本事業の情報を掲載するためのページを準備し、協議会の記録やコンファレンスの様子など随時、情報を掲載した。

【URL】 [http://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp/symbiotic\\_society\\_index.html](http://www.sun.pref.miyazaki.lg.jp/symbiotic_society_index.html)

トップ>生涯学習・社会教育>共生社会の実現に向けた生涯学習の充実



[トップページ](#) > [生涯学習・社会教育](#) > 共生社会の実現に向けた生涯学習の充実

### 共生社会の実現に向けた生涯学習の充実

県教育委員会では、令和2年度より、文部科学省の委託を受け「共生社会の実現に向けた生涯学習支援に係る実践研究事業」に取り組んでいます。

学校卒業後の障がいのある人たちの生涯を通じた多様な学びの機会や家族・関係者を含めたつながりの場を創出・拡充し、持続可能なものとしていくために、推進協議会を組織し、調査研究、実践研究及び普及啓発に取り組んでいます。

#### 文部科学省の事業概要

文部科学省では、「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」を実施しており、令和3年度は以下の3つを内容としています。

- (1) 地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究
- (2) 生涯学習を通じた共生社会の実現に関する調査研究
- (3) 障害者の学びに関する普及・啓発や人材育成に向けた取組

また、県内各地で行われている様々な生涯学習に関する情報については、同ホームページ、トップページ下の「県民情報広場」の活用を検討しているところである。

#### 新着情報・お知らせ

[過去情報一覧](#)

- 2022年02月16日 [県立図書館協議会の委員を募集します](#)
- 2022年02月14日 [令和3年度「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」開催報告・動画公開について](#)
- 2022年02月03日 [「第6回宮崎県生涯学習実践研究交流会」の様子を動画公開しました！](#)



#### 県民情報広場の新着情報

[情報広場はこちら](#)

[会員登録申請](#)



←この部分

### 3 メディアを活用した本事業の広報

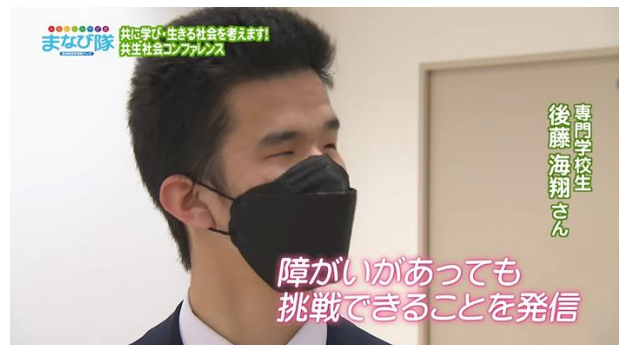
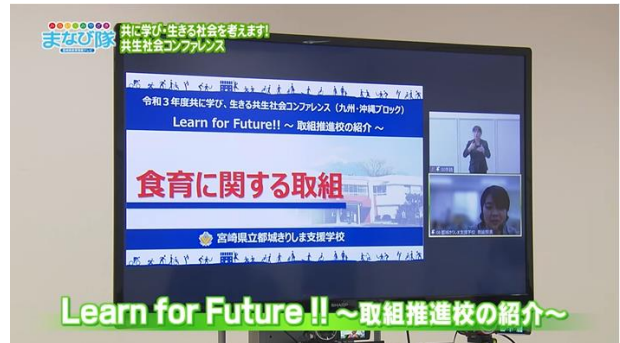
#### (1) ラジオ 宮崎サンシャインエフエム ～ホットオンレディオ～

令和4年1月6日(木)、宮崎市に所在地を構えるコミュニティ放送局である「宮崎サンシャインエフエム」にて、「障がいのある方の生涯学習とは」をテーマにパーソナリティーとの対話の様子が放送された。また「共に学び、生きる共生社会コンファレンス(九州・沖縄ブロック)」のことも紹介することができた。

#### (2) テレビ 宮崎県教育情報テレビ「みらい・みやざき まなび隊」

令和4年2月5日(土)、MRT宮崎放送のテレビ番組で、「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」(九州・沖縄ブロック)の様子が放映された。宮崎県庁ホームページ「楠並木ちゃんねる」で視聴できる予定である。

【URL】 <https://www.pref.miyazaki.lg.jp/kusuchan/index.html>



(3) YouTube 宮崎県教育庁チャンネル



宮崎県教育委員会公式 YouTube チャンネルにて「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」（九州・沖縄ブロック）の紹介を行った。

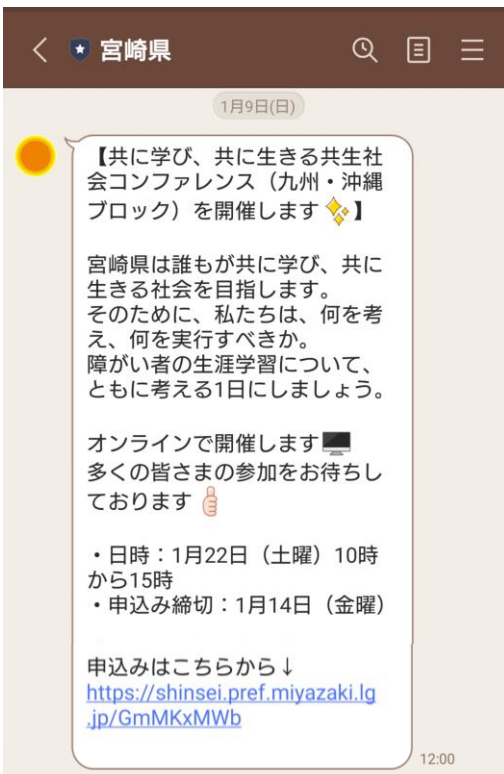
動画アップ後からコンファレンスに関する問合せもあり、一定の効果があったと考えられる。

(4) LINE 宮崎県公式 LINE アカウント



宮崎県の公式 LINE アカウントを活用し、「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」（九州・沖縄ブロック）の紹介を行った。

「友だち」登録者数 9,758 名（令和4年 2 月 22 日現在）おり、チラシ作成枚数 1,400 枚から考慮すると、今後の広報の手段として有効であるとする。



## Memo





## 1 成果

### (1) コンソーシアムの形成

- 中部地区、南部地区、北部地区の3地区に分かれ、それぞれの地域や委員の実態に即した障がいのある方の生涯学習について展開方策を検討することができた。
- 当事者団体や支援団体、学校、社会福祉、企業等様々な分野や立場を超えて本事業の連携推進体制を構築するとともに、今年度は市町村教育委員会の生涯学習講座担当職員を委員として委嘱することで、本事業終了後のそれぞれの地区での継続的な実施に向けた体制を構築することができた。

### (2) 実践研究

- 視点の異なる6団体で研究を行い、コンファレンスや連携協議会において報告するとともに、実施報告書にもそれぞれの実践をまとめ共有することができた。
- 県内2校の特別支援学校に「取組推進校」として依頼し、学校卒業後の生涯学習のイメージづくりと意欲向上に向けた取組を実施することができ、コンファレンスにおいても紹介することができた。

### (3) 普及啓発・情報提供

- 昨年度に引き続き、九州・沖縄ブロックとしての開催であったが、今年度は、内容を県内の各種団体や活動の情報提供を主としたものにして実施した。約160名の参加で、事後アンケートでの満足度約95%であったことから、参加者にとっては「共生社会」について考えるよいきっかけとなったと考える。
- 今年度はテレビ、ラジオ、SNS、広報誌等、多様な情報発信方法を試行することができ、一定数ではあるがその反応が見られた。今後につながる試行であったと捉える。

## 2 課題

### (1) コンソーシアムの形成

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、当初対面式で予定していた協議会4回のうち3回がオンラインでの開催となり、共通理解や計画通り実施することが難しかった。委員同士の共通理解や意見交換など、運営方法について検討が必要である。

### (2) 実践研究

- 3地区それぞれで実施している委託団体の取組を各地区の協議と関連させることが難しかった。次年度は、委託団体と各地区の協議を関連させて進めていきたい。

### (3) 普及啓発・情報提供

- 県内で行われている多様な取組についての情報収集と発信について、県生涯学習課ホームページの活用を検討中である。ただ、その手段が最善かはまだ検討の余地があり、当事者の意見を参考にして進めていく必要がある。
- 本事業の取組について、普段「共生社会」を意識しない県民に広く周知させることに、難しさを感じた。メディアの活用を含め、次年度の取組について検討していく必要がある。

### 3 次年度に向けて

#### (1) コンソーシアムの形成

- 各地区で継続可能な取組とするために、各市町村の公民館等の生涯学習講座との連携を進めていく。その運営方法について各地区の委員で検討し、バックアップ体制を構築していく。また、各主管課の理解を促すための訪問・説明を積極的に行う。
- 3地区の地域や委員の実態に即した取組については継続して検討していく。

#### (2) 実践研究

- 各地区で委託している団体については、それぞれの地域の公民館等の生涯学習講座との連携を想定した取組として実施していく。委託団体とその市町村担当との意見交換や協議を十分に行い講座実施につなげる。

#### (3) 普及啓発・情報提供

- 本事業の周知を図るために、「市町村担当者等研修会（仮称）」を次年度も行き、「障がい者の生涯学習」の視点に立った内容で計画していく。
- 県内の社会福祉協議会や自立支援協議会などとの連携を図りながら情報収集、提供の在り方について検討していく。
- 本事業の情報発信については、普段「共生社会」を意識しない県民に広く周知させるために、今年度試行した SNS 以外にもテレビなどのメディアを積極的に活用し、県民への幅広い周知を図る。





令和3年度「共生社会の実現に向けた生涯学習支援に係る実践研究事業」  
実施報告書

宮崎県教育庁生涯学習課  
〒880-8502 宮崎県宮崎市橘通東1丁目9番10号  
電 話 0985-26-7244